



広域的な連携・連帯で呉線沿岸域の活性化を!!

呉線沿岸域活性化シンポジウム

'92

日時：1992年11月21日(土) 14:30～18:00

場所：シティプラザカンコー3F 鳳凰の間

主催：呉線沿岸域活性化実行委員会
主管：瀬戸内総合研究機構
後援：毎日新聞社、日本経済新聞社、日刊工業新聞社
日本工業新聞社、NHK広島放送局、中国放送
広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島
広島エフエム放送、広島シティケーブルテレビ

広告協賛：広島そごう、中国電力、シティプラザカンコー

シンポジウムの趣旨

'92

呉線は、1903年(明治36年)に呉駅が開設されて90年近い歴史をもつ広島市(広島駅)と三原市(糸崎駅)とを結ぶ交通幹線である。

呉線沿線域には、最近開駅した呉ポートピア駅を含め27駅があり、本年、市制90周年を迎えた呉市をはじめ、広島市、三原市、竹原市、東広島市、安芸郡海田町、坂町、豊田郡川尻町、安浦町、安芸津町、安芸郡府中町、新広島空港が開港する豊田郡本郷町、それに江田島、音戸、倉橋、備前、豊、大崎、瀬戸田などの美しい島々がある。

瀬戸内海という広域的なひろがりのなかで、ゾーン整備の縮図ともいえる呉線沿線域(5市4郡23町)を一つの地域軸として位置づけ、これまで廃置分合の変遷を経てきたこれらの市町が培ってきた自然、歴史、風土、産業、文化などそれぞれの独自性を生かしつつも、真の豊かさを実感できる特色のある地域づくりをめざしていかなければならない。

本シンポジウムは、これまでの枠組みを超えた視点のなかから、見直されつつある軌道系交通機関のあり方を考えると共に、2年後の広島アジア大会にも資する広域観光ルートの開発、共同イベントの企画、産業の振興、快適環境づくりの課題、例えば、生活利便性の向上、歩車共有の道路づくり、各駅各ターミナル周辺環境整備、商店街の活性化、環境保全、地域医療や高齢者福祉の問題、広域的なCATV導入可能性等に対して異なる立場から提言を行うと共に、沿線の市町が連携・連帯を図ることによって、どのような相乗性を引き出すことができるのか、また、それをいかにしたら具体化できるのかを議論する。

なかでも、呉線については、交通事業である以上、利用度を高めていかなければ、複線化、快速化、増便、営業時間の延長、運賃の値下げ等をいくら訴えても事態は打開されない。交通渋滞の解消、人口の定住化の促進を図る為にも、新たな交通システムとのリンク、呉線の内陸部、島しょ部への支線の延伸等も含めた交通体系の整備と車両、駅舎、案内標識等や駅周辺の環境整備を行っていくことが重要である。

また、これらのプロジェクトを具体的に実現していく為の目標年次を10年後の2002年と位置づけると共に、呉線沿岸域の地域づくりのあり方を「呉線方式」として、同様の問題を抱える全国のローカル線沿線の地域づくりのモデル事例にしていくことを本シンポジウムでは提案する。



開会の挨拶 14:30~14:35

基調講演 14:35~



演題「生態系に優しい地域づくり」
中越信和(広島大学総合科学部助教授 景観生態学、環境計画学)

シンポジウム 15:15~

パネリスト

木江町	前田 太(木江町商工会青年部長)
倉橋町	奥久保 清人(あすの島づくり実行委員会委員)
安浦町	沖田 範彦(安浦町長)
安芸津町	柄 宣行(安芸津町商工会青年部長)
竹原市	渡橋 博(竹原青年会議所副理事長)
三原市	渡辺 康博(三原駅前商業地区活性化推進協議会会長)
呉市	横岡 達真(呉青年会議所第39代理事長)

コメンテーター

中越 信和(広島大学総合科学部助教授)

総司会

田中 裕子(NHKちゅうごくソフトプラン ニューメディア推進室ディレクター)

懇親交流会 17:00~18:00

来賓

広島県副知事 小笠原 匠也様
呉市長 佐々木 有様 ほか

閉会の挨拶 17:55~18:00

参加費 5,000円(懇親交流会費を含む)

将来的展望

●呉線沿岸域活性化実行委員会の事務局を沿岸域に新設し、長期的な視点にたった産業振興・特産品、文化、観光・イベント、環境整備・福祉、国際交流、地域間交流など地域活性化のためのプロジェクトをプロデュースし実現していく地域づくり団体として機能させていく。

●国土政策としての次期(第5次)全国総合開発計画、広島県発展計画、各市町の総合計画や広域市町村計画に反映できる具体的な提言を逐次実施していく。

呉線沿岸域活性化実行委員会代表委員

明神 博 呉青年会議所第37代理事長
三谷光男 松下政経塾第4期生
中原好治 広島市議会議員
小田清和 弁護士
木下正弘 呉市議会議員
沖田範彦 安浦町長
小坂智徳 竹原市議会議員
檜山賢司 竹原青年会議所OB
河野 隆 公認会計士
古田真美 ひろしま女性大学第3期生
古田臨久 シンクタンク瀬戸内総合研究機構(事務局長)

※実行委員としてご参画頂ける方、歓迎します。事務局までご連絡下さい。